



京大リウマチ通信

第28号 京都大学医学部附属病院 リウマチセンター

2020.12.22 文責：渡部

関節リウマチと新型コロナウイルス感染症（COVID-19）

はじめに

2020年は新型コロナウイルス感染症が猛威を振るった歴史的な一年であったと思います。「コロナ禍」「with コロナ」など、いまだに毎日テレビやニュースで目にする話題ですが、最初の報告から約一年が経ちましたので、今回は感染拡大予防の観点から重要事項をおさらいしてみたいと思います。

1) 新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）について

2019年末に中国湖北省武漢市において、重症肺炎の集団発生が報告されました。これが、新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）の感染によって起こることが明らかになり、この感染症はCOVID-19（corona virus disease 2019）と名付けられました。2003年に中国で発生したSARS（現在はSARS-CoV-1と呼ばれる）や、2012年に中東地域で発生したMERSと同様、コロナウイルス属に属するRNAウイルスです。一部のコロナウイルスは、風邪症候群の原因となることも知られています。電子顕微鏡で観察すると、その表面の形態が王冠に似ていることから、ラテン語で王冠を意味するコロナという名前が付けられました。

2) これまでに起きた主な出来事のまとめ

2019年12月31日 中国武漢市から世界保健機関（WHO）に肺炎集団発生の報告

2020年

- 1月6日 厚生労働省から「武漢市における肺炎集団発生への注意喚起」
- 1月28日 我が国で、「指定感染症」及び「検疫感染症」に指定
- 2月中旬 ダイヤモンド・プリンセス号でクラスター発生
- 2月11日 WHOがCOVID-19と命名
- 3月11日 WHOが「パンデミック（世界的大流行）」を宣言
- 4月7日 我が国で政府が7都道府県に対して「緊急事態宣言」を発令
- 4月中旬 東京都は「3密の回避」「新しい生活様式」を発表
- 5月25日 全国で「緊急事態宣言」の解除
- 7月上旬 「第2波」による感染の再拡大
- 7月22日 我が国で「GoToキャンペーン」開始
- 11月中旬 「第3波」による感染の再拡大
- 12月中旬 「GoToキャンペーン」の見直し

3) COVID-19の特徴

ウイルス（SARS-CoV-2）に感染して1～14日（5日前後が多い）の潜伏期間で、風邪様症状で発症することが多いとされています。発熱・咳・喉の痛み・鼻汁・頭痛が多く、味覚障害や嗅覚障害を伴うこともあります。肺炎が重症化すると、呼吸困難や呼吸苦を伴います。また、血栓症による脳梗塞などを合併することもあります。80%が軽症のまま治癒しますが、20%が増悪、5%で集中治療が必要となると報告されています（Wu Z, JAMA 2020）。また、高齢者、慢性呼吸器疾患、慢性腎臓病、糖尿病、高血圧、心血管疾患、肥満（BMI 30以上）が重症化のリスクと報告されています（新型コロナウイルス感染症（COVID-19）診療の手引き第2.2版）。症状が治った後にも後遺症が残る可能性も示唆されています。

★京大病院では、外来での新型コロナウイルス感染症の診察（PCR検査目的を含む）は行っておりません。



4) 検査・診断について



① 遺伝子検査法 (PCR 法、LAMP 法)

鼻咽頭ぬぐい液や、唾液、鼻腔 (鼻の入り口) から検体が採取されます。コロナウイルスに特異的とされる RNA 配列を PCR 法を用いて検出します。90%以上の患者で陽性になりますが、陰性でも完全には否定できない点に注意が必要です。

② 抗原検査法

30 分程度で判定可能ですが、PCR 法に比べて、結果が陽性になりにくい可能性があります。

③ 抗体測定法

感染から 1 週間前後で抗体が陽性になってくるため、現在の感染を評価できません。

★現在、京大病院では、入院時には全員、一時個室に入って、新型コロナウイルスの PCR 検査を行って頂き、陰性が確認されるまで部屋から出ることができません。また、入院中は原則、面会禁止です。入院が決定した後は、感染予防に十分ご留意ください。特に、入院前 2 週間は旅行や外食などのリスクの高い行動は避けてください。



5) 関節リウマチと COVID-19

① 関節リウマチでは、関節に炎症が起こるため、発熱や関節痛など、COVID-19 の症状と区別が難しいことがあります。また、関節リウマチの治療中に肺炎を起こすことがあり、COVID-19 との鑑別が重要です。

② 「感染症のリスクが上がる」と主治医の先生に言われている薬を投与されている患者さんも多いと思います。しかし、今のところ、関節リウマチの患者さんが COVID-19 になりやすいとか重症化しやすいという確固たる証拠はありません。また、リウマチの薬の中で「この薬を使っていれば安心」という薬はありません。

6) COVID-19 の予防・治療

予防として、手洗い、うがい、マスクの着用、手指の消毒、3 密 (密閉・密集・密接) の回避、こまめな換気、ソーシャルディスタンスの確保などが重要とされています。これは、インフルエンザの予防にも重要です。また、厚生労働省の「新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 診療の手引き第 2.2 版」には、レムデシビル (RNA 合成酵素阻害薬) とデキサメタゾン (ステロイド薬) が承認済の治療薬として記載されていますが、COVID-19 と診断された際には、重症度に応じた治療が必要となりますので、主治医の先生とご相談ください。最近、欧米諸国でワクチン接種が開始されたというニュースを耳にした人も多いと思います。しかし、我が国での接種開始時期やワクチン接種対象、長期的な副作用の有無など、まだ不明な点が多く、今後の情報をお待ちください。

★新型コロナウイルス感染症に関しては、日々、情報が更新されておりますので、最新情報を参考にしてください。また、投薬に関しては主治医の先生と相談して決めてください。



	受付時間				
	午前 8 時 15 分～午前 11 時 00 分				
	月	火	水	木	金
107 室	山本				
108 室	橋本	村上	田中	橋本	田中
109 室	白柏		村田 (午前) 伊藤 (午後)	伊藤	村田 (第 2.4) 田淵 (第 1.3.5)
110 室	渡部				

リウマチに関するご質問、「リウマチ通信」や「リウマチ教室」で特集してほしいテーマがありましたら、外来主治医または外来秘書にお気軽にお申し出下さい。

お問い合わせは…



京都大学医学部附属病院 リウマチセンター
代表電話 075 (751) 3111 予約電話 075 (751) 4891
〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町 54

